

南相馬市 三浦綾子読書会

南相馬市原町区では、毎月1回(第3日曜日)に「三浦綾子読書会」が行われています。場所は原ノ町駅前の交流センターです。参加者は毎回10人を超えます。三浦綾子の作品を声を出して読んで、その後で一人一人が感想を述べ合います。各地の読書会と交流がある佐藤孝子さんがリーダーです。『塩狩峠』を読了して、今は『泥流地帯』を読んでいます。私は、読書会には時々欠席します。読書会後の喫茶店「いこい」でする交流会が目当てです。こちらではほとんど人と話しをする機会がないので、楽しいひと時です

三浦綾子 旭川ツアーに参加して

7月3日～5日の三浦綾子旭川ツアーに行つて来ました。参加者は全国から集まって41人でした。

作品『塩狩峠』の塩狩記念館・長野正雄殉職碑や作品『泥流地帯』の上富良野町開拓記念館・泥流地帯の碑を見学しました。残念ながら、爆発した十勝岳は見ることはできませんでした。春光台・道ありき記念碑にも行きました。また、三浦夫妻の生家や2人が通つた旭川六条教会・三浦夫妻の墓(観音霊苑)にも行きました。もちろん三浦綾子記念文学館にも行きました。森下辰衛特別研究員が話しをしてくれました。

川村カ子トアイヌ記念館と旭岡アイヌ墓地へ行きました。北海道の先住民は、アイヌ人です。江戸時代から明治時代にかけて、内地の日本人に征服されて、差別されてきました。

月形樺戸集治監にも行きました。明治政府によって、内地の囚人が北海道へ移送されて、厳寒の中で、道路建設や開拓に使役させられました。北海道の開拓は、囚人の人達にも因るのです。

ぜるぶの丘(ラベンダー)や層雲峡・銀河流星の滝の観光地も見学することができました。

ツアーの案内をしてくれたのは、長谷川与志充牧師(三浦綾子全国読書会の元代表)と宮嶋裕子さん(三浦綾子の元秘書)です。お二人とも、すごい知識の持ち主です。ツアーの参加者は、全員が三浦綾子ファンなので、直ぐに全員が打ち解けることができました。

三浦綾子は、朝日新聞の懸賞小説に『氷点』応募して、第一位となって、賞金1千万円をもらいました。昭和39年7月10日発売の朝日新聞で報道されました。しかし、その賞金は自分達では使わないで、両親の家の新築にあてたとのことでした。

『氷点』は映画になりました(山本薩夫監督・若尾文子・安田道代)。また、テレビドラマにもなりました(新珠美千代・内藤洋子)。テレビの時間帯には、銭湯の女湯が空っぽになったとの話もあります。

三浦綾子は、若い時は教師をしましたが、結核やカリエスにかかって、長い闘病生活をしました。その後、三浦光世さんと知り合つて、結婚しました。三浦綾子はペンを持つことができなくなって、口述筆記をして、夫の光世さんが記録しました。三浦綾子は、クリスチャンです。作品だけでなく、彼女の生き方にも感動させられます。



【塩狩峠の墓標—1909年（明治42年）2月28日、官営鉄道天塩線の列車が暴走・長野正雄運転手が身をもって列車を停止させて殉職した】（2024年7月3日撮影）



【泥流地帯の碑—1926年（大正15年）5月24日十勝岳が大噴火・144人の死者・行方不明者が出た】（2024年7月3日撮影）

◇是非、福島へ来てください。被災地を案内します。

携帯：090-5300-4664

メールアドレス p-mia08@outlook.jp